

# 美山学だより 3学期

美山小学校では「美山学」と題して美山の歴史・文化・人・物・事を教材として学び、表現力やコミュニケーション能力を高める学習に取り組んでいます！

南丹市立美山小学校

Tel : 75-0017 FAX : 75-0106 Mail : miyama-es@kyoto-be.ne.jp

平成 31 年 3 月 22 日発行 NO.12

## 大野 4年生 ダムの役割とは？～下流を守る大野ダム～

4年生は社会科の授業や総合の授業を通して、身近な水にかかわることについて学んできました。道徳でも、水をめぐる人々のつながりについて学習しました。2月4日には大野ダムに行き、お話をうかがいました。

洪水が多い由良川で、美山より下流での洪水をできるだけ防げるように、貯水量や放水量を細かく操作しておられること、水を貯めたり放水したりして動いていること、水力発電を



ることなどを教えて頂きました。特別に、建物の下流側にある作業用のデッキスペースを歩かせていただきました。遥か下の川面まではかなりの高さがあり、手すりから手を離せずにかわごわ歩く子もいましたが、全員が無事に渡り切りました。大野ダムがどのような役割を果たしているのかを、実際に見て感じることでできた今回の見学でした。また3月5日には、虹の子交流センター(旧大野小学校)でのサテライト教室を開催し、大野ダムができた当時のお話を東慧さんにうかがいました。18年もの長い年月をかけて建設された当時の村の様子や、ダムの底に村が沈んでいる事、人々の暮らしを守るためにダムがどのように建設されたのかを地域の方から直接聞くことができ、さらに学びを深めました。



ることなどを教えて頂きました。特別に、建物の下流側にある作業用のデッキスペースを歩かせていただきました。遥か下の川面まではかなりの高さがあり、手すりから手を離せずにかわごわ歩く子もいましたが、全員が無事に渡り切りました。大野ダムがどのような役割を果たしているのかを、実際に見て感じることでできた今回の見学でした。また3月5日には、虹の子交流センター(旧大野小学校)でのサテライト教室を開催し、大野ダムができた当時のお話を東慧さんにうかがいました。18年もの長い年月をかけて建設された当時の村の様子や、ダムの底に村が沈んでいる事、人々の暮らしを守るためにダムがどのように建設されたのかを地域の方から直接聞くことができ、さらに学びを深めました。



## 下吉田みそ加工グループさんと一緒に 美味しい こだまの手前

こだま学級は2月5日に下吉田みそ加工グループのみなさんのご指導のもと、みそづくりを体験しました。

材料は美山の大豆を使っています。中までしっかりと柔らかく茹でた豆を、袋に小分けして、自分たちの手でつぶします。手のひらを使って強くおさえたり、リズムに合わせてたたいたりして、ひと粒ひと粒とつぶしていきました。豆をつぶしながら、豆にまつわ



るクイズが飛び出すなど、子どもたちもとても楽しんでいました。豆が十分につぶれたら、米麴と塩を混ぜ、今度はころころ丸めて、大きなお団子状にしてみそ玉を作ります。

おにぎりを握るようにしてみたり、大きなボールのようにしてみたり。ボールが出来上がったら、仕込み用の樽にみそ玉を思いっきり投げつけて空気を抜きながら詰めていきます。どんどん投げて、あっという間に詰め終わりました。

最後に、こだまのみんなが仕込んだお味噌のふたに名前を書いて、「おいしくなーれ」の言葉も添えて出来上がりです。おいしいこだまみそが出来ますように。



## あゆみ 3年生 工房での体験・交流

3年生は2月5日に障がいのある方の就労支援や、生活介護をされているあゆみ工房へ行き、みなさんと交流してきました。あゆみ工房では、パンの製造販売や、下請け作業などのほかに、生産活動として、さをり織りやその他の創作活動もされています。これらのお仕事のお話を聞かせていただいた後で、実際に作業のお手伝いを一緒にさせていただきました。

名札ケースのフックを付ける作業や、ひもをかける作業など、ひとつひとつ利用者の皆さんが実際にやって見せながら丁寧に、とても親切に教えてくださ



ました。さをり織は、それぞれが違った模様を思い思いの色で仕上げられておられ、とてもきれいです。このさをり織からたくさんの種類の商品が作られています。作業の体験をさせていただいた後は、利用者の皆さんに合奏の発表を見ていただき、風船バレーを一緒にして交流しました。

皆さんと一緒にした作業や、交流を通じて、学校の近くにあるあゆみ工房がさらに近い存在になりました。あゆみ工房の皆さま、ありがとうございました。



## 2年生 スイセン 咲いたよ！「人権の花」

人権啓発活動地域ネットワーク「人権の花」運動として、人権擁護委員のみなさんにお世話になり、10月に2年生が植えた「人権の花」スイセンが花を咲かせています。3月11日には「人権の花」を植えて育てたお礼に、人権擁護委員協議会より感謝状をいただきました。2年生は元気にお礼を言いました。これから、スイセンの花を見る度に友達一人一人を大切にすることを思い出せるといいなと思います。



## ふゆ 1年生 の遊び～昔の遊び第4弾！～地域の人々が師匠です！

1年生は年間を通して、地域の方やおうちの方、おじいちゃんおばあちゃんに習って昔の遊びを体験してきました。3月7日にはその第4弾となる「冬の遊び」を体験し、遊びの師匠として、地域の方々にお世話になりました。ななこの会(お手玉遊びをされるグループのみなさん)や、これまでも参加して下さった山内さんご夫妻、祖父母の皆さんにもご協力いただきました。事前にたくさんの遊びを紙に書いていただき、手遊びの歌やお手玉の時に歌う歌詞も用意していただきました。



お手玉、あやとり、けん玉、竹とんぼ、メンコなど、最初は遊び方が分からず、ひとつひとつ教えてもらっていた子どもたちも、今度は友達に教えてあげるようになってどんどん遊びの師匠が増えていきました。お手玉遊びでは、みんなで輪になって「あんたがたどこさ」を歌いながら、曲に合わせて踊りながら遊んだり、これまでにしたことのない遊び方をしたりしました。最後に全員で輪になって冬の遊び体験を終えました。「今度、やすらぎホーム行ってやりたいなあ」と子どもたちの声が聞こえてきました。



## ビジターセンターって??? 正式名称は京都丹波高原国定公園ビジターセンター

**5年生** 5年生は、2月26日に平屋の「道の駅ふれあい広場」にある「京都丹波高原国定公園ビジターセンター」へ見学に行きました。ねらいは、美山町の観光業について理解すること、観光の実態を知ること、美山のすてきを見つけることなどです。

美山を訪れる観光客の数は、外国の方も合わせて年間約90万人、美山町の人口約3,800人とすると、その200倍以上の人が訪れていることとなります。その数字を見ただけでも驚きますが、美山には



それだけの魅力があるということでしょう。ビジターセンターには南丹市美山観光まちづくり協会の事務所があり、美山町の魅力を発信したり、イベントの企画運営や観光のためのPRなどされていることが分かりました。このほかにも展示スペースやミュージアムショップがあり、4月にリニューアルされて以降、初めて訪れた子どもも多く、今度は家族で来てみたいと話していました。



## 6年生 弁当の日

2月5日、6年生は「弁当の日」の取組のひとつとして、調理実習を行いました。食生活改善推進委員のみなさんに指導していただき、「ツナハンバーグ」「にんじんの甘煮」「さつまいものカリカリいため」「青菜のごまあえ」を作りました。慣れない調理に初めは緊張した顔つきでしたが、進んでいくにつれていい顔になっていきました。そして、あっという間に4品ができあがりました。自分で作ったおかずを弁当箱に詰め込むときには嬉しそうな顔でした。「うまかったです。」「苦手な食べ物もあったけど、自分で調理をしたらおいしくできた。」そして、多くの子が「自信がついた。不安がなくなった。」との感想でした。食生活改善推進委員のみなさんの温かいご指導のおかげです。ありがとうございました。



2月12日には、この経験を生かして自分のお弁当をつくってきて、みんなで見せ合いながら、楽しくおいしく食べました。

2月12日には、この経験を生かして自分のお弁当をつくってきて、みんなで見せ合いながら、楽しくおいしく食べました。

## 3年生 こんにゃくのひみつ～萱野こんにゃくグループ

3年生は2月12日に、萱野こんにゃくグループさんにお世話になり、手作りこんにゃくに挑戦しました。子どもたちが初めて見るこんにゃくの材料は、サトイモによく似た白いお芋でした。萱野こんにゃくができるまでを実際に体験してみた子どもたちは、こんにゃくって実はお芋と水と灰汁しか入っていない、自然のものしか使っていない食べ物であることを知りました。

萱野の集落がこんにゃく芋作りに適した土地だったこと、原料となるこんにゃく芋が、3年もかかって成長すること、また、添加物を使わずに安心安全なこんにゃくを作っておられることなど、お話を聞くうちに萱野のこんにゃくがおいしいわけも知ることができたような気がします。この見学、体験を通して、地域の方のものづくりに込められたいろいろな思いも、子どもたちに伝わったのではないのでしょうか。萱野こんにゃくグループの藤原さん、小中さん、ありがとうございました。



萱野の集落がこんにゃく芋作りに適した土地だったこと、原料となるこんにゃく芋が、3年もかかって成長すること、また、添加物を使わずに安心安全なこんにゃくを作っておられることなど、お話を聞くうちに萱野のこんにゃくがおいしいわけも知ることができたような気がします。この見学、体験を通して、地域の方のものづくりに込められたいろいろな思いも、子どもたちに伝わったのではないのでしょうか。萱野こんにゃくグループの藤原さん、小中さん、ありがとうございました。



## やすらぎホームでおじいちゃんおばあちゃんと交流

**1年生** 1年生は3月13日にやすらぎホームへおじゃまして、地域交流会に参加しました。この日はやすらぎホームの利用者さんだけでなく美山町内の他の施設やデイサービスを利用されている方も参加しておられ、100名以上の方の前で発表を見て頂きました。歌に、手遊び、少し前に地域の方に教えていただいたお手玉遊びを披露したり、最後にミッキーマウスマーチの演奏とパフォーマンスのグループに分かれて歌ったり踊ったり、ビュンビュンゴマを回したり、それぞれが一生懸命に披露しました。1年生のかわいい様子にみなさん笑顔がこぼれ、中には顔見知りのおじいちゃんおばあちゃんもおられて、お互いに元気を届けることができました。



歌に、手遊び、少し前に地域の方に教えていただいたお手玉遊びを披露したり、最後にミッキーマウスマーチの演奏とパフォーマンスのグループに分かれて歌ったり踊ったり、ビュンビュンゴマを回したり、それぞれが一生懸命に披露しました。1年生のかわいい様子にみなさん笑顔がこぼれ、中には顔見知りのおじいちゃんおばあちゃんもおられて、お互いに元気を届けることができました。



## 熟議から

### 地域とともにある学校づくりは次年度へ向けて準備中です!

地域、学校、保護者の皆さんが一緒になって意見を交流しあう、「地域みんなで子どもたちの未来を考えるワークショップ」熟議をこれまでに6回開催してきました。その中で、毎回のように話題になったのは、「芦生の森での学習について」でした。西日本屈指の原生林やブナ林が今も残されている、貴重な自然の宝庫である芦生の森。京都大学の研究林として約100年もの間、その自然の偉大さや人との関わりなど、さまざまなひとびとが研究の対象としてきた森です。もちろん、研究者だけでなく一般のハイカーの方も含めると、年間に約4,000人もの方が訪れています。この数は、美山町の人口よりも多いのです。「このフィールドで学ばない手はない!」と言うのが、熟議での共通の思いとなりました。そこで今、地域と学校とが一緒になり、次年度からの芦生の森をフィールドにした学習の計画を立てています。

地域とともにある学校づくりに大変重要な、協働の作業です。学校と芦生自然学校、芦生研究林、保護者の視点からもさまざまな意見が出され、有意義な打ち合わせが実現しました。このようにして、地域と学校、保護者が一緒になって、ひとつひとつ一緒に積み上げていくのが美山学であり、コミュニティスクールとしての美山小学校です。

地域とともにある学校づくりに大変重要な、協働の作業です。学校と芦生自然学校、芦生研究林、保護者の視点からもさまざまな意見が出され、有意義な打ち合わせが実現しました。このようにして、地域と学校、保護者が一緒になって、ひとつひとつ一緒に積み上げていくのが美山学であり、コミュニティスクールとしての美山小学校です。



### 第6回熟議「地域の子どもの教育にどう生かすか～美山の魅力を語り合おう」

3月7日に美山中学校にて開催した熟議には、地域、保護者の皆さん、学校教員を合わせて約40名が参加し、一緒に子どもたちの教育に生かせる美山の魅力について語り合いました。これまで5回にわたって開催してきた中で出された意見を踏まえ、どのようにして学校教育、地域(社会)教育、家庭教育の場に生かすことができるか、さまざまな考えが出されました。参加者の多くはアンケートで、今後より具体的な実現に向けた動きを期待されており、引き続き地域とともにある学校づくりの現場で生かしていきたいと考えています。



HPで美山学の他、日々の子どもの様子も随時更新中です! ぜひご覧ください。

